

第 150 回（2025 年度春季）大会若手研究者優秀賞選考報告

1. 選考の経緯

・第 1 回選考委員会

選考委員は小澤裕香、松永伸太朗、山村りつ、米澤旦の 4 名。選考対象者リストを確認し、今後の選考日程と手順を決定した。また、選考委員長に山村を互選した。

・第 2 回選考委員会（4 月 30 日：メール審議）

締め切りまでに提出された 14 本のフルペーパーを対象に一次選考を行い、うち 5 本（うち 3 本は補欠）を選考した。うち 2 本は最終選考へ進めるものとし、補欠 3 本について最終選考へ残すかどうかの審議を次回委員会で行うこととした。

・第 3 回選考委員会（5 月 10 日：オンライン会議）

二次選考として補欠 3 本の選考を行い、うち 1 本を最終選考に残すものとした。その後、最終選考に進めた 2 本に補欠からの 1 本を加えて、3 本で最終選考を行い、優秀賞授与者を決定した。

・第 4 回選考委員会（5 月 14 日：メール審議）

選考報告書を決定した。

2. 選考の結果（受賞作）

権明「中国におけるケアの再家族化に関する再検討：ダブルケアの視点に基づいて」

3. 選考の理由

本報告は中国で行われた大規模調査によるパネルデータを用いて、現在の中国の中老年女性が自らの親と孫のダブルケアに晒されている実態を浮き彫りにした実証性の高い調査研究である。その前提として、適切な分析枠組みや調査手法および丁寧な分析、目的から考察まで一貫した記述によって信頼性と妥当性を高めた、論文としても非常に質の高いものであると評価した。

ダブルケアは日本でも大きな関心事となり、近年その議論や研究が数多くみられる。中国においても、ケアのあり方やそれに関わるジェンダー的構造についての議論は多く、「再家族化・再ジェンダー化」などの指摘がされてきたが、一方で理論的な議論が先行し、家族内ケア責任の内実に迫るような研究は少ない。本研究は上記パネルデータの 2011 年と 2018 年のデータを用いることで、現在の中老年女性が担うダブルケアの実状だけでなく、その進展および変化の状況および都市と農村における変化の違いなどを明らかにし、中国においてケアの「再家族化」が起きている状況を実証的に示している。本研究は中国についてのものであるが、本研究の結果やその分析枠組みは、日本など、他の国や社会におけるダブルケアおよび家族内ケア役割についての調査研究においても示唆を提供するものだろう。

なお、優秀賞授与者の決定にあたり、本人の過去の論文との異同を確認した。特に、2024 年に社会政策学会誌に掲載された本人による投稿論文と類似している点について委員より指摘があったが、本フルペーパー内で 2024 年論文の位置づけが明記されており、また異なる結論が導き出されていることなどから問題ないと判断し、本報告フルペーパーを優秀賞受賞作として選出した。

また、「再家族化」の定義および本報告の調査結果との関連付けについて説明が不十分ではないかとの指摘もあった。これについては、今後の研究において検討・精緻化されることを期待するものである。

(文責：選考委員長・山村りつ)